

胃がん検診

対象

40歳以上

日本人に多いがんですが、早期がんで発見される率が高く、早期がんのうちに治療を受ければ比較的治りやすいがんの一つです。進行胃がんであっても適切な治療を受ければ十分に治癒する可能性があります。

症状

早くから症状が現れることもあれば、進行してもまったく症状が現れないこともあります。**胃痛や胸焼け、黒い便**が出ることがあります。

検査方法

バリウム（造影剤）と発泡剤（胃を膨らませる薬）を飲み、X線で胃の形や粘膜を観察します。

※酒田市の胃がん検診では胃カメラ検査は実施していません。（ただし、内視鏡ドックを除く。）

●胃がん検診 精密検査（胃部内視鏡検査）

内視鏡を口または鼻から挿入し、胃の中を直接観察します。必要に応じて細胞も採取します。

注意点

バリウムによる胃部X線検査では、体質や病気の既往によってはアレルギーによる重篤な症状が出ることがあります。また、排便困難やまれにバリウムが腸内で固まり腸閉塞・腹膜炎を起こす場合があります。

※以下の方は受診できません

- ・消化管（食道、胃、十二指腸、小腸、大腸）穿孔、腸閉塞、腸捻転、大腸憩室炎の既往がある方
- ・検診当日にお腹が痛いなどの症状がある方、朝食をとった方
- ・胃がん検診でアレルギー症状を起こしたことがある方
- ・血液透析をしている方など、医師から水分制限を受けている方
- ・体重制限があります（検診車の場合120kg以上・施設内の場合130kg以上の方）
- ・妊娠中または妊娠している可能性のある方

※以下の方はかかりつけ医（医療機関）にご相談ください

- ・消化管（食道、胃、十二指腸、小腸、大腸）疾患で治療中の方
- ・外科手術や内視鏡手術の既往のある方
- ・腹膜炎、大腸憩室のある方
- ・バリウムの飲み込みの悪い方（むせやすい、咽頭の病気、誤嚥性肺炎の既往がある方）
- ・排便困難や腹部膨満などを感じるほどの便秘の方
- ・体位変換が困難な方
- ・授乳中の方



ピロリ菌検査をすると何がわかるの？

日本人の2人に1人がピロリ菌陽性といわれています。この菌は幼少時に感染し、継続的に胃粘膜に炎症を引き起こします。その結果、胃粘膜が慢性的に炎症して胃粘膜がうすく萎縮した「**慢性萎縮性胃炎（慢性胃炎）**」になっていきます。最近の研究で慢性胃炎が胃がんの発生に深く関わっていることが解明されています。つまり、ピロリ菌による慢性胃炎を防ぐことができれば胃がんの発生リスクも低くなるわけです。まずは、自分の胃にピロリ菌がいるかどうかを調べてみましょう！

◎酒田市では、対象年齢の方にピロリ菌検査費用の助成があります。

詳しくは2ページ「費用助成がある対象年齢早見表」を参照ください。

注：ピロリ菌検査は胃がん検診とセットの受診になります。

大腸がん検診

対象

40歳以上

治療しやすいがんですが、患者数は増加傾向にあります。女性ではがんで死亡した原因の1位になっています。

症状

発生場所により症状は異なりますが、**血便**が多く見られます。ほかに**腹痛、便秘、残便感**などがあります。痔と勘違いしやすい症状も多く注意が必要です。

検査方法

便潜血検査は、便の中に含まれる血液を探り、大腸内の**出血の有無**を調べる検査です。

●大腸がん検診 精密検査(大腸内視鏡検査)

直腸から盲腸まで内視鏡で大腸を直接観察します。 必要に応じて細胞も採取します。

注意点

- ・痔の出血があるときや生理中のときは、便を採らないでください。
- ・大腸内視鏡検査を受けたばかりの方、大腸疾患で治療中の方はかかりつけ医（医療機関）にご相談ください。



大腸がん検診で陽性！…でも痔だから大丈夫？

痔がある人、ない人も大腸がん検診を受けて陽性となる確率は変わらないという調査結果が出ています。そのため、検査を受けて陽性となった場合は、痔以外の大腸の病気による出血を疑って、精密検査をうけましょう。

肺がん検診

対象

40歳以上

がんの中で肺がんは最も死亡数が多く、男性では1位、女性では2位となっています。早期にがんを発見できれば治療できる可能性が高くなります。

症状

発生場所などによって症状は異なりますが**血痰**は肺がんの可能性が高いです。最も多いのは**無症状**で、検診や、他の病気で胸部X線やCTを撮ったときに偶然発見されることが多いです。

検査方法

X線で胸部を撮影し肺の状態を観察します。

たん検査も行っております（たん検査はX線とセットでなければ受けられません）。

《たん検査の対象者》（下記に該当する方のみ）

- ・50歳以上で [1日平均喫煙本数×喫煙年数] が600以上の方
- ・受動喫煙による健康上心配のある方

●肺がん検診 精密検査

胸部X線やCTで撮影し、肺の状態を観察します。

注意点

- ・妊娠中の方は受けられません

肺がんとタバコについて



喫煙は肺がんの原因の1つです。喫煙者は非喫煙者と比べて男性で4.4倍、女性では2.8倍肺がんになりやすく、喫煙年数や喫煙本数が多いほど肺がんのリスクが高くなります。直接吸っていなくても受動喫煙（自分の意志とは関係なく周囲に流れるたばこの煙を吸うこと）によっても肺がんのリスクは増加します。しかし、禁煙を続けるほどリスクは徐々に低下していきます。自分や家族、周囲の人のためにも禁煙を心がけましょう。